

目黒、篠田、熊本、山下、河野等々肩を揃べてのメーデー参加であつたが、勿論これに依つて情勢の好轉は見出すべくもなかつた。其後幾度か懇談会、協議会等を開催したのであつたが、篠田一派の大会開催合流の望は断たれ、終に、五月廿一日に至り、執行委員長目黒留吉は中央委員会の決議に基き、大会を六月十日前後に開催すべきことの通達を發し、引續き期日を十三日と決定し之を公表したのである。

大会開催期日決定の通達に対し、篠田一派は直ちに

「大会は全支部参加の下に決行しろ」

「目黒君の専断大会を延期しろ」

「刷新協議会を紛碎しろ」等々のビラを配布して、代議員の大会出席阻止を極力宣傳したのである。

斯の如き現状に於て幾何の代議員を大会に送り得るや、果して大会は成立し得るや、大会は反対派の策動に依つて攪乱せられ流会の憂目を見るのではないか等の危惧の感を持つものも出た、然し目黒派は勿論、篠田派たりとも、東交を分裂の結果に導いて、その存立を危からしむることは、全労働戦線を乱し、労働者階級の陣營を軟弱化せしむるものであるに鑑み、その責任から逃れんとするの態度あ

るは疑ふべくもなかつた。

兎も角、六月十三日、予定の通り大会は芝公園協調会館に於て開かれ、自動車部全支部及電卓部、青山、巢鴨、三輪、神明町の四支部代議員九十一名を除く、非乗務部及電車九支部の代議員二百七十六名を以て所謂東交更生大会は構成せられ、情勢報告、議事、役員改選と大会事項を経て、極めて平穩裡に終了した。

唯一、大会議事進行中、篠田一派は各支部代表懇談会の名を以て、大会代議員宛「統一的大会開催を要望する」意味の決議文を持参し、大会席上の発表を迫つたのであつたが、大会委員側に於ては、篠田一派の代議員に対してと同様に大会召集の正式通告を發送し、その席も設けて出席を歓迎したるに、敢て出席せず、東交の分裂を導くが如き行動のあるは甚だ寒心に堪へないものである、とその要求を一蹴すると共に同決議文を握り潰したのである。

この決議文が提出せられるや、大会は、佐藤圭次郎（軌工部）の提案により、不参加支部に対しては、その行動に対する勧告文を發送すべしと決議し、更に動議に基き、両派の締結を計り、東交の單一組合強化の爲の具体的協議懇談機関として「統一協議会」の設置を決議し、篠田派に対し提案することゝなつた。